

# 家計調査 平成20年 1～3月期平均結果の概況

## - 家計収支編（二人以上の世帯） -

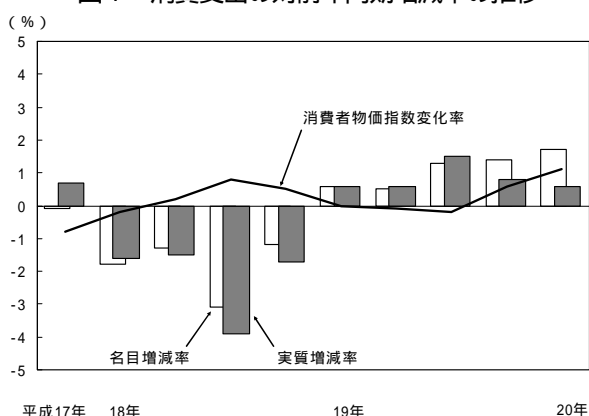
### 家計収支の概要

#### 1 消費支出は5期連続の実質増加

平成20年1～3月期の二人以上の世帯（平均世帯人員3.13人、世帯主の平均年齢55.8歳）の消費支出は、1世帯当たり1か月平均299,406円で、前年同期に比べ名目1.7%の増加、実質0.6%の増加となった。

最近の消費支出の動きを対前年同期比でみると、平成18年1～3月期から18年10～12月期まで4期連続して減少していたが、19年1～3月期以降は5期連続して増加している（図1）。

図1 消費支出の対前年同期増減率の推移



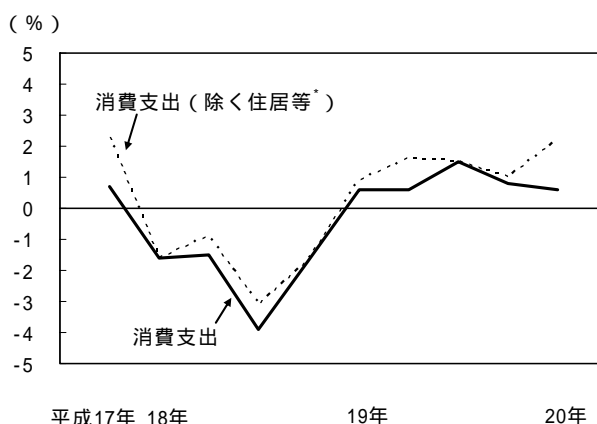
(注) は1～3月期、 は4～6月期、 は7～9月期、 は10～12月期を表す。以下同じ。

また、消費支出（除く住居等<sup>注1</sup>）についてみると、平成20年1～3月期は前年同期に比べ実質2.2%の増加となっている（図2）。

注1) 「住居」のほか、「自動車等購入」、「贈与金」及び「仕送り金」を除いている。これらの見方については、「家計調査の結果を見る際のポイント」（下記URL）No.4を参照されたい。

<http://www.stat.go.jp/data/kakei/point/index.htm>

図2 消費支出の対前年同期実質増減率の推移

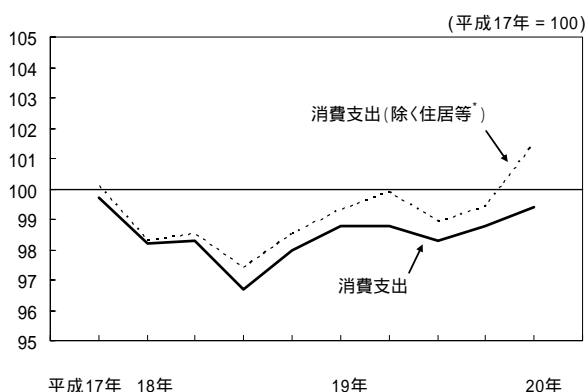


\*: 「住居」のほか、「自動車等購入」、「贈与金」及び「仕送り金」を除いている。図3も同じ。

季節調整済実質指数で消費支出の足元の動きをみると、平成20年1～3月期は前期に比べ実質0.6%の増加となっている。

また、消費支出（除く住居等<sup>注1</sup>）についてみると、平成20年1～3月期は前期に比べ実質2.1%の増加となっている（図3）。

図3 消費支出（季節調整済実質指数）の推移

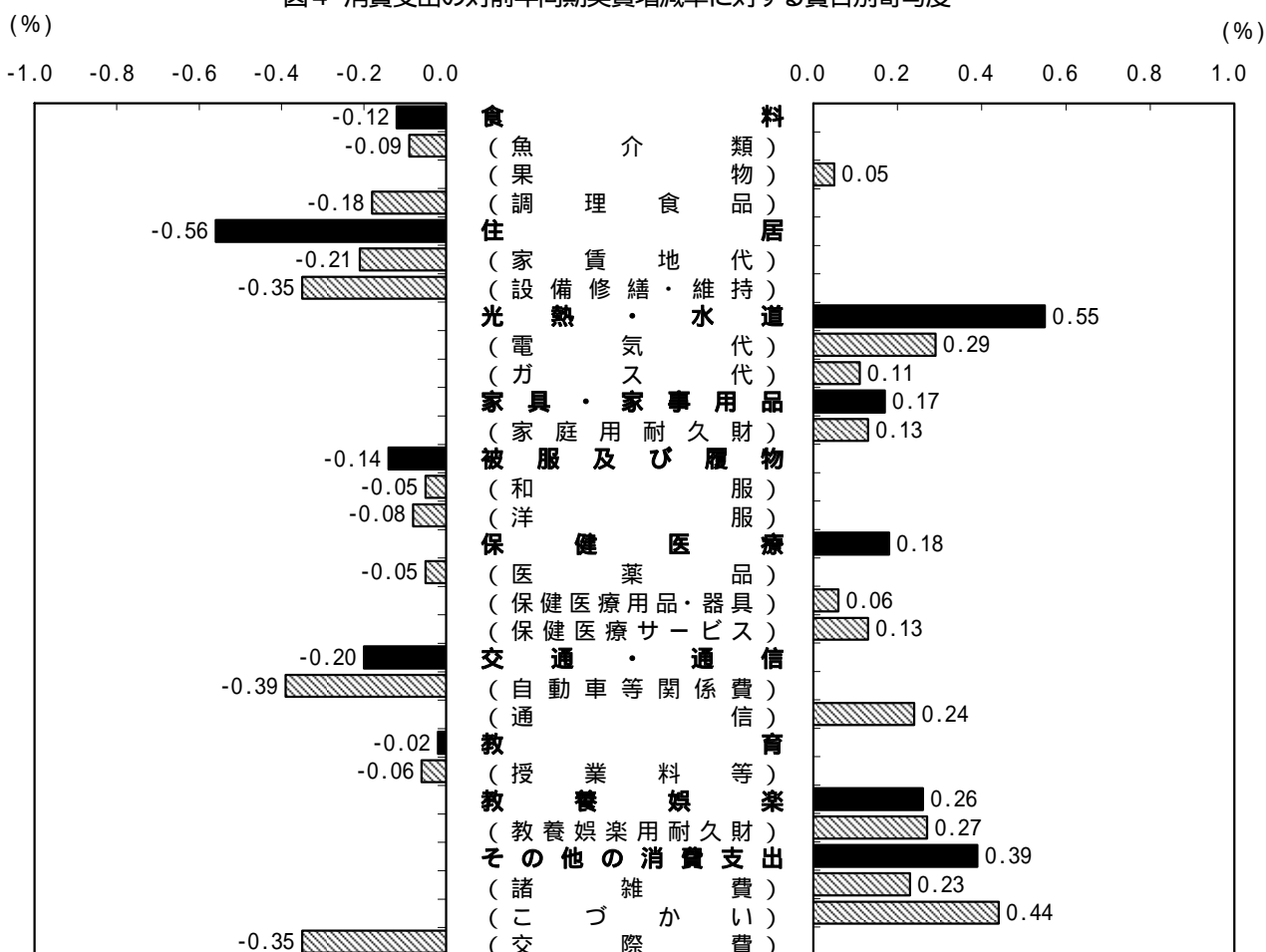


2 電気代などの光熱・水道が実質増加に寄与  
 平成20年1～3月期の消費支出の対前年同期実質増減率に対する寄与度(%)を費目別にみると、電気代(+0.29)及びガス代(+0.11)を含む光熱・水道(+0.55)のほか、こづかい(+0.44)及び諸雑費(+0.23)を含む「その他の消費支出」(+0.39)、テレビ、パーソナルコンピュータなどの教養娯楽用耐久財(+0.27)を含む教養娯楽(+0.26)が消費支出の増加に大きく寄与した。

また、歯科診療代などの保健医療サービス(+0.13)を含む保健医療(+0.18)、電気冷蔵庫などの家庭用耐久財(+0.13)を含む家具・家事用品(+0.17)も増加に寄与した。

一方、設備修繕・維持(-0.35)を含む住居(-0.56)のほか、自動車等関係費(-0.39)を含む交通・通信(-0.20)、被服及び履物(-0.14)、食料(-0.12)、教育(-0.02)は消費支出の減少に寄与した(図4)。

図4 消費支出の対前年同期実質増減率に対する費目別寄与度

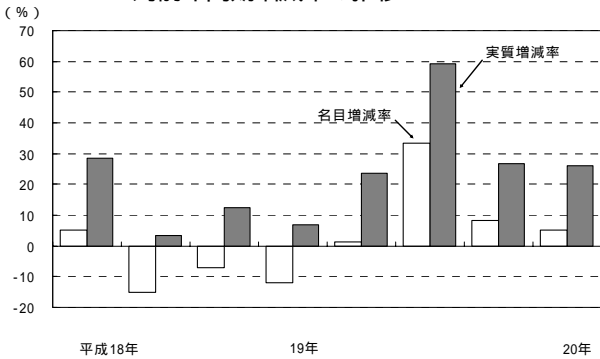


(注) 1. 平成20年1～3月期  
 2. グラフ中の黒棒の部分は10大費目を表す。  
 3. 「その他の消費支出」、こづかい及び交際費の増減率の実質化には、消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)を用いた。

**最近の家計消費の特徴**

1 教養娯楽用耐久財への支出の増加  
 テレビなどの教養娯楽用耐久財の動きをみると、平成20年1～3月期は、前年同期に比べ実質25.9%の増加となり、15年4～6月期以降20期連続して実質増加となっている。また、平成19年4～6月期以降は、4期連続で20%以上の実質増加となっている（図5）。

図5 教養娯楽用耐久財の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移

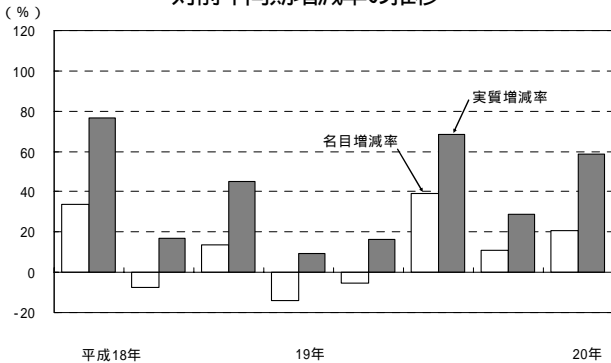


教養娯楽用耐久財の中の主な品目の動きは次のようになっている。

**テレビ**

薄型テレビの販売が引き続き好調なことなどもあり、平成20年1～3月期は前年同期に比べ実質58.5%の増加となり、15年4～6月期以降20期連続して実質増加となっている（図6）。

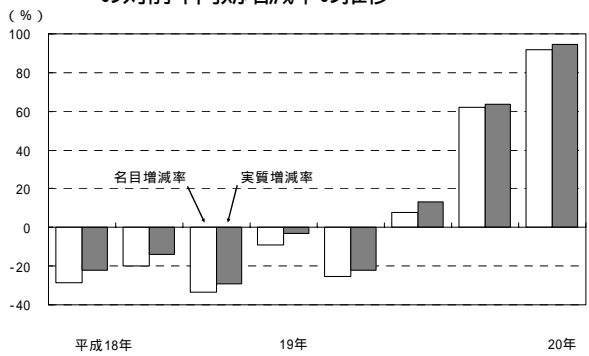
図6 テレビの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



**携帯型音楽・映像用機器**

平成19年9月に、大手メーカーから携帯型音楽・映像用機器の新製品が発売されたこともあり、19年7～9月期以降、前年同期に比べ3期連続して実質増加となっている。平成20年1～3月期は実質94.7%の増加と、19年10～12月期に比べ増加幅が拡大した（図7）。

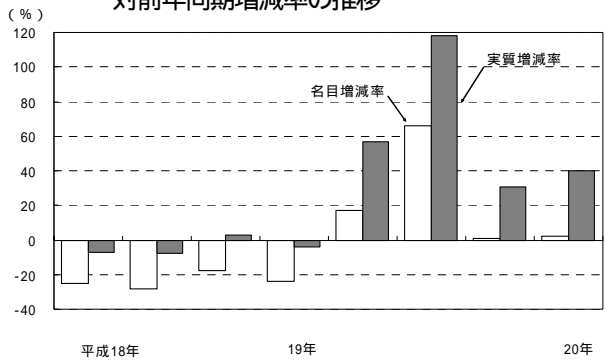
図7 携帯型音楽・映像用機器の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



**パーソナルコンピュータ**

平成19年1月に、最も普及している基本ソフトの新バージョンが発売されたこともあり、19年1～3月期は前年同期に比べ実質減少となったものの、19年4～6月期以降は4期連続して実質増加となっている。平成20年1～3月期は実質40.1%の増加となった（図8）。

図8 パーソナルコンピュータの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



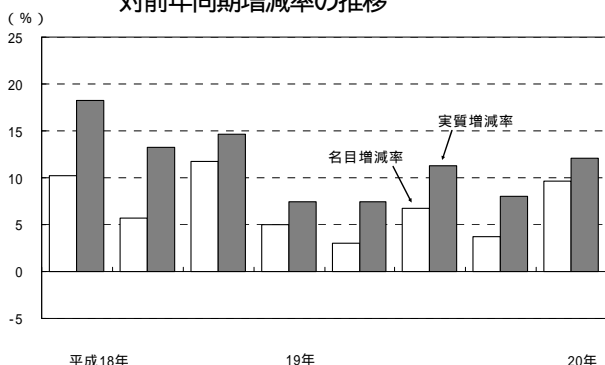
## 2 ICT関連への支出の増加

携帯電話通信料などのICT関連商品・サービスに対する支出が増加している。主な品目の動きは次のようになっている。

### 携帯電話通信料

携帯電話通信料は、平成19年1～3月期以降、増加率はやや低下したものの、引き続き前年同期に比べ実質増加となっており、20年1～3月期は実質12.1%の増加となった(図9)。

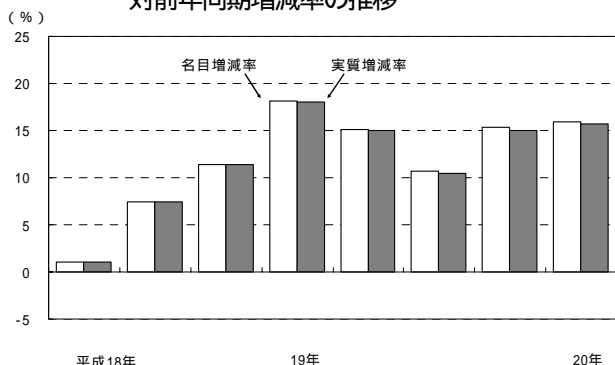
図9 携帯電話通信料の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



### インターネット接続料

インターネット接続料は、平成20年1～3月期は前年同期に比べ実質15.7%の増加となり、18年10～12月期以降、6期連続して10%以上の実質増加となっている(図10)。

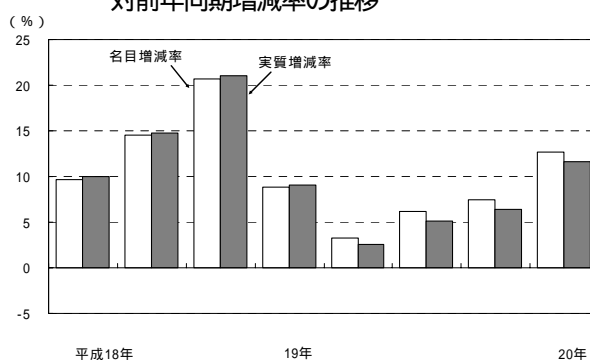
図10 インターネット接続料の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



### ケーブルテレビ受信料

ケーブルテレビ受信料は、平成18年4～6月期以降、前年同期に比べ3期連続して10%以上の実質増加となった。平成19年1～3月期以降は、増加率は低下したものの、引き続き実質増加となっており、20年1～3月期は実質11.6%の増加と19年10～12月期に比べ増加幅が拡大した(図11)。

図11 ケーブルテレビ受信料の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移

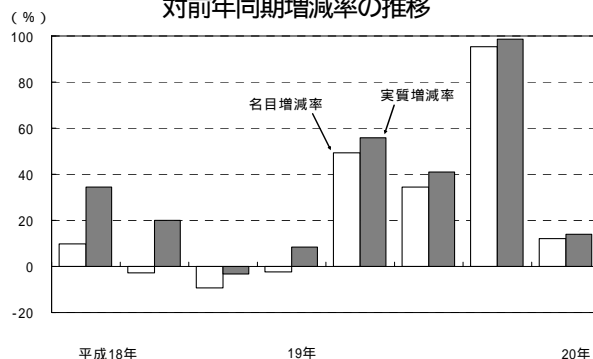


### 携帯電話<sup>注2</sup>

携帯電話は、大手携帯電話通信会社3社のうち1社が平成18年10月から、残り2社が19年11月から、携帯電話機代と毎月の利用料金を分離する料金プランの提供を開始したこともあり、19年1～3月期以降、前年同期に比べ5期連続して実質増加となっている。平成20年1～3月期は、増加幅は19年10～12月期に比べ縮小したものの、実質13.9%の増加となっている(図12)。

注2) 「携帯電話」とは、携帯電話及びPHSの電話機本体及び付属部品をさす。

図12 携帯電話の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移

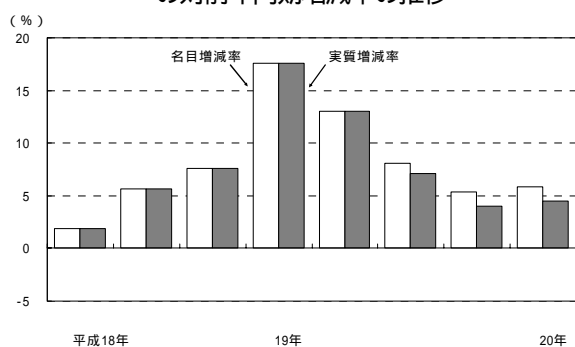


### 3 その他注目される品目の動き

#### 非貯蓄型保険料

非貯蓄型保険料は、様々なタイプの掛け捨て型医療保険が販売されたこともあり、平成18年4～6月期以降、前年同期に比べ実質増加が続いており、20年1～3月期は実質4.5%の増加となった（図13）。

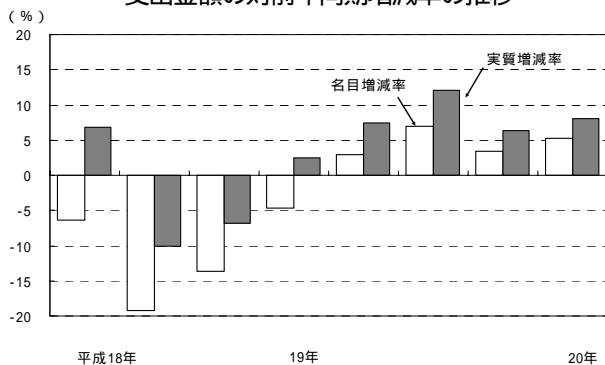
図13 非貯蓄型保険料の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



#### 音楽・映像用未使用メディア

音楽・映像用未使用メディアは、DVDレコーダーの普及が進んでいることや、デジタル放送の録画に対応したメディアや次世代DVDメディアの販売が好調なこともあり、平成20年1～3月期は、前年同期に比べ実質8.1%の増加となり、19年1～3月期以降、5期連続の実質増加となっている（図14）。

図14 音楽・映像用未使用メディアの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



#### ペットフード及び動物病院代

昨今のペットブームもあり、ペット関連の支出が増加している。ペットフードは、平成20年1～3月期は前年同期に比べ実質5.1%の増加となり、18年4～6月期以降8期連続の実質増加となっている（図15）。

動物病院代も、平成20年1～3月期は実質33.6%の増加となり、18年1～3月期以降<sup>注3</sup>9期連続の実質増加となっている（図16）。

注3) 平成17年の収支項目分類改定により独立項目となったため、対前年同期比を算出できるのは、18年1～3月期からとなる。

図15 ペットフードの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移

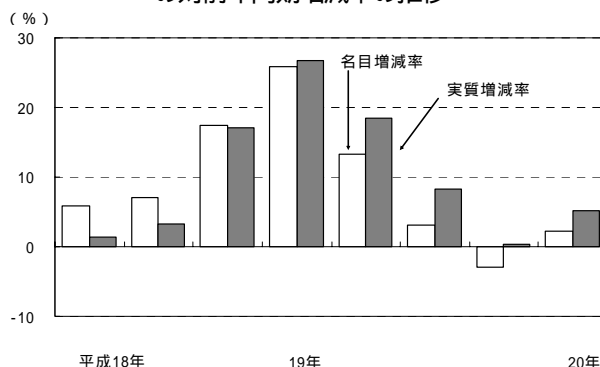
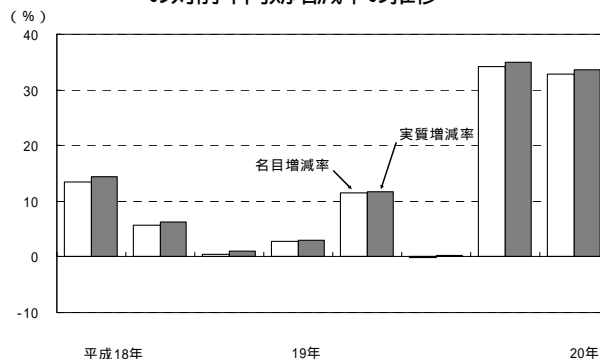


図16 動物病院代の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



## 最近の家計をめぐる事象

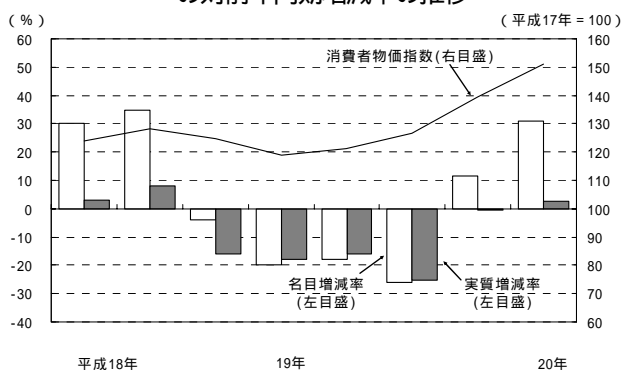
### 1 原油関連品目の動き

原油価格の高騰により、灯油及びガソリンの価格が上昇している。これらの品目について支出額の推移をみると、次のようになっている。

#### 灯油

灯油価格は、平成19年10～12月期から更に上昇したものの、1月後半から2月前半にかけて気温が低めに推移したこともあり、20年1～3月期は、前年同期に比べ実質2.8%の増加と、6期ぶりの実質増加となった。名目では30.9%の増加となっている（図17）。

図17 灯油の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



#### ガソリン

平成19年10～12月期から価格が更に上昇したことや、20年4月1日からのガソリン税（揮発油税及び地方道路税）暫定税率の期限切れによる値下げを待つ買い控えがあったこともあり、20年1～3月期は前年同期に比べ実質2.1%の減少となり、19年4～6月期以降4期連続の実質減少となっている（図18）。

平成20年3月と前年同月の日別実質支出金額を、同じ曜日で比較すると、20年3月27日以降、前年の同じ曜日を下回っていることが分かる（図19）。

図18 ガソリンの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移

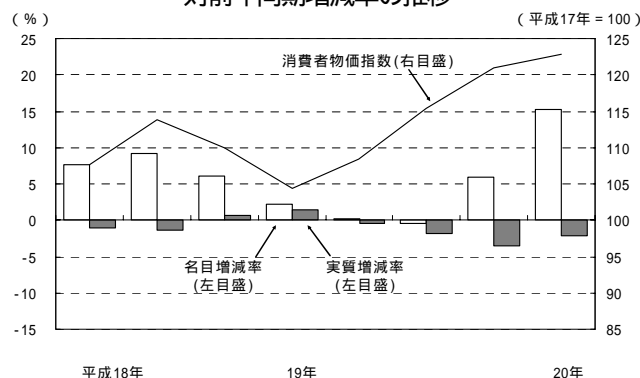
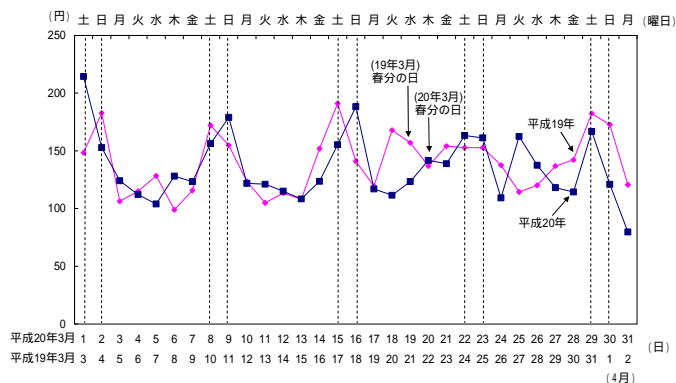


図19 ガソリンの日別実質支出金額の推移



### 2 価格が上昇した主な品目の動き

原材料費の高騰もあり、様々な商品やサービスの価格の値上げが実施された。価格の上昇が世帯の購入に影響したとみられる品目についてみると、次のようになっている。

#### マヨネーズ・ドレッシング

マヨネーズ・ドレッシングは、価格が前期に比べ8.7%上昇した平成19年7～9月期は、前年同期に比べ名目実質共に減少となり、それ以降、名目では増加となっているが、実質では減少が続いている。平成20年1～3月期は名目7.5%の増加、実質5.1%の減少となった（図20）。

図20 マヨネーズ・ドレッシングの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移

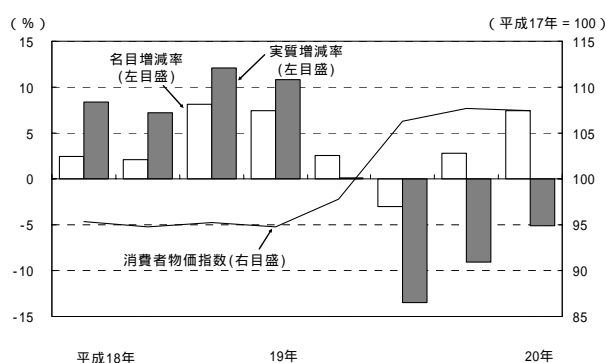
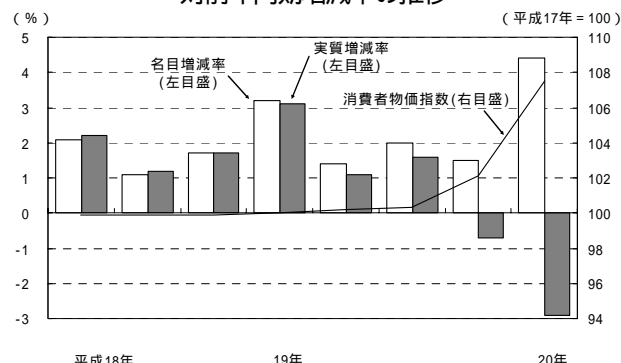


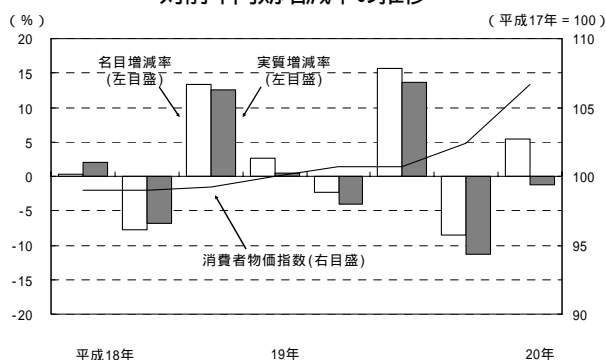
図22 パンの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



魚介の缶詰

魚介の缶詰は、平成19年7～9月期は、前年同様に比べ名目実質共に増加となったが、価格が前期に比べ1.7%上昇した19年10～12月期、4.2%上昇した20年1～3月期と、前年同様に比べ2期連続して実質減少となっている。平成20年1～3月期は、名目5.4%の増加、実質1.2%の減少となった(図21)。

図21 魚介の缶詰の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



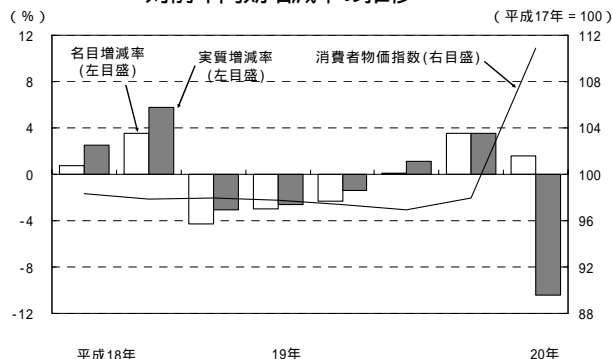
パン

パンは、価格が前期に比べ1.8%上昇した平成19年10～12月期、5.3%上昇した20年1～3月期と、前年同様に比べ2期連続して実質減少となっている。平成20年1～3月期は、名目4.4%の増加、実質2.9%の減少となった(図22)。

カップめん

カップめんは、価格が前期に比べ1.1%の上昇にとどまった平成19年10～12月期は、前年同様に比べ名目実質共に3.5%の増加となったが、価格が13.2%上昇した20年1～3月期は、名目1.6%の増加、実質10.4%の減少となった(図23)。

図23 カップめんの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



3 中国産冷凍ぎょうざが原因と疑われる健康被害の発生の消費への影響

平成20年1月末に中国産冷凍ぎょうざが原因と疑われる健康被害の発生が大きく報道された。

平成20年1月から3月までのぎょうざ<sup>注4</sup>及び冷凍調理食品の日別支出金額からその影響をみると、両品目共に1月末から、支出金額が前年に比べ大きく減少していることが分かる(図24、図25)。

平成20年1～3月期は、ぎょうざは前年同様に

比べ実質26.4%の減少、冷凍調理食品は実質22.1%の減少となった。

注4) 「ぎょうざ」とは、焼きぎょうざ、蒸しぎょうざ、水ぎょうざ、揚げぎょうざのほか、生も含む。ただし、冷凍品は「冷凍調理食品」に含まれている。

図24 ぎょうざの日別支出金額の推移

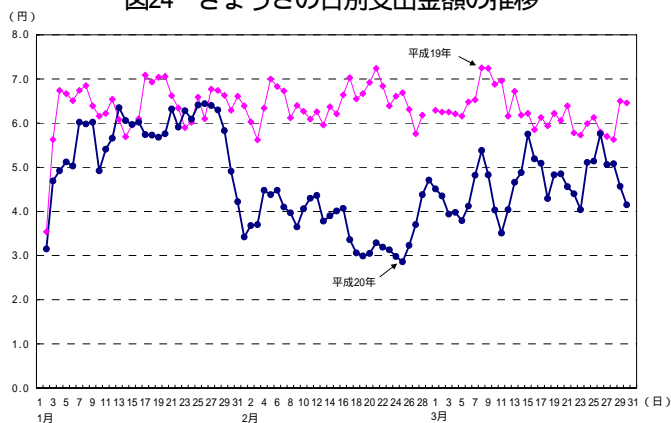
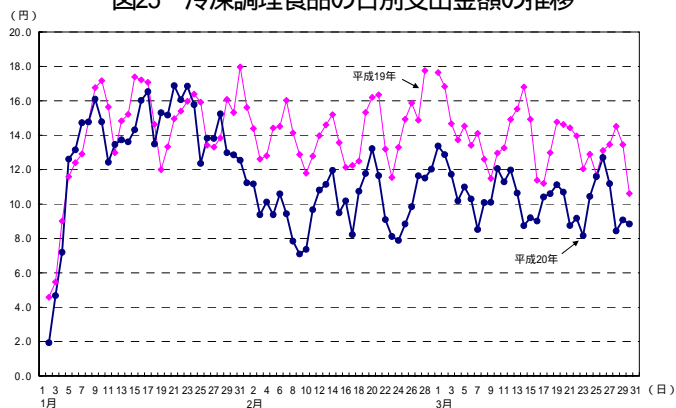


図25 冷凍調理食品の日別支出金額の推移



(注) 支出金額は3日移動平均値である。

(平成20年5月30日 作成)